

# 【 整理番号、54 】 富山県、県庁周辺エリアアイデアコンペ応募作

1st フェーズ【 富山市都市マスタープラン 】(富山市の構想を参照ください。)以下から応募作品です。

## 2rd フェーズ【【 富山市都市マスタープラン改 ~ シェルタウン TOYAMA プラン ~ 】】

富山市都市マスタープランは、少子高齢化社会で、人口減少社会になっていく都市の計画としては良いのかもしれませんが、絵に描いた餅ならぬ、**絵に描いた団子プラン**です。

なぜならば、諸問題の原因の分析と、**その対策なくして人は動かないから**です。

よほど魅力的な施策を打ち出さない限りは、必ず失敗に終わるでしょう。いち市民・国民として、現状のプランに乗っかりたいとは思えないからです。そこで、その原因と対策を考えてみました。

### 【 諸問題 】

人口減少社会兼、少子高齢化社会になっていくことが予測できていることに伴って、医療費や介護費の増大と、税金の減少が見込まれているのに、都市のドーナツ化現象により、市民は郊外へと居住を移しており、それに伴って行政の都市管理コストが増大していく点にあります。

【 原因 】・・・原因の根幹はお金です。カップルになり、結婚をし、子供を産み育て、家を買って、老後を楽しむのに、お金が足りません。(行政や国もその対策用のお金が無いと言うでしょうけど)

都市部の土地価格が高い(仮に、マスタープランの思惑通りに都市の魅力が増えたら、駅前と周辺の土地は更に値上がりして、多くの人は遠ざかる原因となるでしょう。)

↓

土地を買って、家建てて住みたい世代が土地や住居を探した時に、都市部よりも安い郊外の土地を買って家建てたり、借りたりした方が良いと思う。特に富山は車社会なので、住むのは安い郊外にして、必要なら車で都市部に行けば良いやという判断になりがちです。市の事業によって、街中の人口は少し増えたそうですが、そもそも、自然豊かな田舎に住んでいる人達の多くが、圧縮陳列されたような街中に住みたいと思いませんか？

↓

田舎や郊外に住む人々の心理を理解していない為、都市部のドーナツ化現象が起きる

↓

行政の都市管理コストが上がる。(現状の線路を高架化したものなどは、少子高齢化が加速した未来になると、管理コストが重荷になると考えられます。高度経済成長期に作ったインフラものが、現在の重荷になっているように。何度同じ過ちを繰り返すつもりですか？・・・少子化を防がずに街の整備をして、世界一魅力ある街にしたとしても、子孫たちは街の管理コストに悩む事態になりますよ？)

このような原因がある中で、行政が「コンパクトシティを目指すので、みなさん都市部へ移り住んでくださいね」と言ったところで、市民は、『同じ出費で住むなら、【広い部屋になる家・部屋数多く出来る家】の方が良いから嫌だ』となって、郊外で家建てたり買ったり借りたりするだけになります。自分がその立場でもそうなると思えますし、多くの人もそうだから、都市のドーナツ化現象が日本各地で起こっているのだと考えられます。

## ★ この原因への対策なくして、マスタープランの実現は無い!! ★ と、考えます。なので現状のものは絵に描いた団子プランです

そこで、以下の対策を推奨します。

まず、人(カップル)を増やし、人(子供)を増やし育てる為に資金を出して下さい。子育て支援ばかり多くて、カップルを増やす施策が少ないです。順番が間違っています。後述するフェーズ3等で行う環境内で、カップルを増やすゲームなどを提供することで、カップルを増やすように仕向けます。

そして、公共交通の活性化案ですが、人を運ぶのを主体にしているから、現状に甘んじているので、お店(オマケで人)を運ぶことにします。1両ごとにお土産屋さん・女性用洋品店・男性用洋品店・靴屋・化粧品店・ドラッグストア・100均・八百屋・肉屋・花屋・ゲームおもちゃ屋・めがね屋・コンビニ・飲食店・・・等々というように分けて、電車が店兼人と貨物を運ぶもの、というようにすれば、移動しながら買い物もできて一石二鳥です。内部の人の乗る所以外は全部自販機にしても良いと思えます。こうなると、家の前まで来て欲しいと思われるようになるでしょう？ 富山は路面電車で有名なので、それを極めて、市内は(全自動運転電車と車以外の)車通行を禁止にし、代わりに路線を物凄く増やして、複線は、単体で沢山の車両を走らせて、お客が止まって欲しい所で止まってくれる融通が利く運用をすると良いと思えます。

主線は、2両編成での運行どころか、20両など多編成で走らせた方が採算がとれると思えます。また、電車は線路上を走るもの、という概念を捨て去れば、線路の代わりに道路や電柱などにビーコンを埋め込んで、センサー+レーダー+ネットワークを利用して、電車や全自動カーはそれらを利用して、レベル5の自動走行が可能になると考えます。(将来的には、そのようなビーコンも不要になるかもしれませんが、)これで線路の敷設・メンテナンス費が圧縮できると思えます。ビーコンを利用すれば、痴呆などにより徘徊して迷子になった老人や子供の捜索にも使えますし、マーケティングにも利用可能ですから、利点は多いです。国を挙げて整備すべきです。

想像して下さい。家の近くまでお店兼電車や全自動運転カーが来てくれる便利さを。街中を沢山の路面電車が巡回しているさまを。一部路線は、過疎化が激しい地区まで行けば、買い物難民問題も解決できます。世の中ドライバー不足とか言われてますが、電車も自動車も全自動運転を当たり前にしましょう。線路の代わりにビーコン等を使えば、実現可能性は高いと思えます。

次に、行政が都市開発を行って、富山駅を中心に、同心円状の様に3層(第1層(市が設定しているまちなか(都心)地区)の中心部には商業エリア・第2層には居住エリア・第3層に農園エリア)の超巨大なマンションを建設し、全ての商業施設と居住者用の住居などをその中に入れます。(現状の補助金を出して、各自各々に好き勝手作らせるのではダメです。箱は計画的に創って整備するべきです。富山市都市整備事業の概要55ページの市街地再開発事業のような感じのものを、街全体に拡大させるとイメージして下さい。) これを富山市が最初に構想している団子都市間に作り、それらを鉄道や全自動運転カーにより結びます。

外部から見ると、亀の甲羅か、ヤドカリやカタツムリなどのシェルのように見えることから、シェルタウンと名付けました。

分かりやすいイメージとしては、漫画やアニメで一世を風靡した【進撃の巨人】に出てくるような、壁に閉ざされた街のようなもので、違うのは、壁の内側の高さに相当する容積部分の上下階にも階層があり、巨大なマンションと化しているような感じ  
です。巨大なマンションが街を丸ごと飲み込んだ感じて、排ガスが出ない車か路面電車店しか内部を走れないマンションという感じです。屋上などから外光を屋内へ取り入れる技術は既にありますので、太陽光を屋内に照らす事は可能だと思いま  
す。

このマンションの良い所は、免振機能や、輻射式冷暖房機能や、ゴミの自動回収機能などをもち、住民は地震に怯えなくて良かったり、室温や湿度を気にせず生活できたり、ゴミはダストシューターに入れるだけで良くなったり（既に東京の湾岸エリ  
ア近辺のマンション群ではそうなっているそうです）、花粉や黄砂や排気ガスや雪や台風などの悪天候に悩まされることもなく、生活できる点にあります。

近年の異常気象からもわかる通り、今後は更に自然環境・生活環境が悪化することが予想されていますので、このメリットは非常に人々の心を引き付ける魅力となると思います。

行政および市民はこれで、光熱費やゴミの回収費や除雪費などの都市管理コストの削減の恩恵が受けられる事が可能となります。（代わりにマンション管理コストが高くなる可能性もありますが・・・）

また、この超巨大マンション内での移動は、徒歩か自転車を基本とすることで、健康に良い街にでき、住民の健康と行政の医療介護費の削減に貢献することになるでしょう。あとは、自動運転電動カートによる移動も可能にすれば、体調不良の方や、  
妊婦さんや、重い荷物を運びたい人などは、安価または無料でそのカートを利用できるようにすると良いと思います。

そして、多くの人がこの町に住むようになることで、昭和世代の様な、お隣さんとのご近所づきあいの様な関係の構築が、世話をした人は行政から仮想通貨が貰えるなどのソフトプランにより可能となります。

こうすることで、若い世代による高齢者の見守りが可能となり、逆に高齢者世代から若い世代への知恵や知識や技術の継承も可能となります。

そうすると、、、住民は心身ともに健康になり、痴ほう症の減少、医療・介護費の削減にもつながり、死ぬまで元気に働けるようになることで税金も増え、社会が活性化します。

また、昔のご近所づきあいの良さや現代の付き合いの距離感の、中間的な付き合いを可能とする街並み・文化とすることで、男女間の交際も増え、少子化への歯止めも掛かるでしょう。

**そのような生き方が出来る生活環境を行政が創るのです。**

県のありたい姿として、歴史を活かすとありますが、「どこに歴史がありますか？」 11歳の頃から富山に住んでますが、富山城だけが浮いて見え、歴史を感じるものではありませんでした。あれを歴史と言うなら笑えます。空襲で焼け野原になった  
のは知っています。それを感じる所がありますか？ありません。過去は捨ててください。過去を引きずっても良いことはありません。新たな街づくりをもって、それを歴史の連なりとすれば良いだけです。過去に囚われていると、新たな未来が【創れ】ま  
せん。

想像してください…………… 200平米が1500万円で手に入り、光熱費が安く済み、見守りサービスシステムが構築されていて、防犯・防災対策が強化された住宅と、

200平米4000万円で郊外にランニングコストが高い家を作って、見守りサービスの恩恵も無く、防犯・防災対策も不十分な住宅があった場合、

**どちらに住みたいですか？**

そんな街を行政が創って販売するのです。（価格は例です。）

これで多くの人を街中に集中させる**コンパクトシティが実現可能となる**でしょう。

**人々が郊外に住む原因を覆す魅力は、目には目を歯には歯をの精神で、同じ住環境の構築により人々の心を掴みます。**

この動機なくして、問題の原因となる根源の解決はありません。

## 3rd フェーズ【【 TOYAMAgi (魔法) ~空間 】】

セカンドフェーズで生活環境を整えてから、サードフェーズで、より人が集まりやすくなる魅力的な街づくりを行います。

コンセプト、富山や世界の歴史や文化が最先端テクノロジーを利用しながら、富山の街なかで★(世界を)体験できる★(学べる)イノベーション都市

名付けて、、、【 TOYAMAgi (魔法) ~空間 】(読み、とやまじっ~くうかん)=(富山+マジック空間+時空間)

背景、

人はみな、自分が知らない世界・異文化に、興味を持つものだと思います。

なぜならば、**知らない世界を知ることは、自己の成長に繋がるから**です。

敗戦後の日本は、多くの人が仕事を求めて都会に出てきました。現在の80代前後の人達が懸命に働いて、日本を高度経済成長させて、経済大国世界第2位の地位まで発展させ、バブル崩壊までに至りました。

しかし、国民は誤った民主主義を取り入れたせいで、政治家や官僚による間違った政策が行われ、30年以上の月日で国力が大幅に減少し、経済大国世界第2位の座から転落し、4位になってしまいました。その背景には、アメリカなどの外的要因  
が大きく影響しているとはいえ、**燦燦(さんさん)たる結果**です。GDPで観るとまだましに見えますが、国際競争力で観ると、64か国中35位という有様です。(2023年度スイスの国際経営開発研究所(IMD)が発表) [https://  
business.nikkei.com/atcl/gen/19/00081/090800599/](https://business.nikkei.com/atcl/gen/19/00081/090800599/)

そうってしまった今でも、地方からの人口流出は止まることはなく、都会には人が集まってきます。

物流網が発展し、田舎でも都会と同じ物が手に入り、通信も発達し、テレワークが出来る時代です。

人口が密集していない田舎の方が暮らしやすいにもかかわらず、どうして人々は都会に集まって来るのでしょうか？

一つは仕事に多様性があるから。もう一つは、遊びにも多様性があるから。そして物資も手に入れやすいから。

人、仕事、物、カネ、遊び(情報)が集まり、飽きずに楽しく暮らせそうだから。

だから人は、知らない事(情報)が多い都会に集まるのです。



しかし、そんな中で日本が世界で一・二を争う競争力を持った資源が残されていました。それが観光資源です。世界中の人々が最も行ってみたい国、それが日本だそうです。(世界経済フォーラム(WEF)が5月21日に発表、2024年版の旅行・観光開発ランキング日本3位) <https://www.worldshopping.biz/blog/wef-tourism2024> (21年度は1位!) <https://www.tjnet.co.jp/2022/06/06/%E6%97%85%E8%A1%8C%E3%83%BB%E8%A6%B3%E5%85%89%E9%96%8B%E7%99%BA%E6%8C%87%E6%95%B0%E3%81%A7%E6%97%A5%E6%9C%AC%E4%BD%8D%E3%80%80%E3%82%A4%E3%83%B3%E3%83%95%E3%83%A9%E3%82%84%E8%B3%87%E6%BA%90%E3%81%AB/>

逆に、日本人は外国に行ってみよう。  
しかし、10代はお金が無い。20~50代は仕事が忙しい。60代以降は体力が無いなどの理由で、中々行きたいように行けないのが実情だと考えられます。

そこで、**富山へ行けば世界を体験できる。**

それが、【**TOYAMAgi (魔法) ~空間**】(読み、とやまじっ~くうかん)です。

富山駅を降りると、そこはもう異世界。ロールプレイングゲームの世界です。  
まちそのものが巨大なセットのような感じに仕上げます。

富山の街中では、産官学民が連携し、**毎年どこかの国や都市・文化・歴史を取り入れたものをテーマとし、世界観を取り入れた街づくりを行い、MR(混合現実)やAR(拡張現実)技術を使って、現実世界とアプリ内世界や、メタバース世界を融合させます。**

登録住民や企業は、ゲーム内の水先案内人となり、キャラとして活動してもらい、プレイヤーとして登録した住民や、観光客は、プレイヤーとして街中を散策することで楽しむのが基本です。  
持続可能な仕組み作りとして、水先案内人(ゲームメイカー)となる人や企業は県庁(外観や内観は、張りぼて風でも良いので、ゲーム内のようなセットを組むことで、その雰囲気を出した環境)で登録してもらい、ゲームメイカーとしての活動量に応じて、運営企業や行政や国から一定の報酬が与えられます。その報酬は、国内外の政治や経済状況に左右されにくい仮想通貨として支払われます。(もちろん受け取った方は、自国の通貨に変えることも可能です。)

また、前年度には、世界に向けて翌年度のテーマを発表し、ゲームのシナリオやゲームメイカーとして活動したい人や企業や商品(&賞品)を募集することで、国内外から優秀なアイデアや人材を集めます。  
**基本的な方針としては、どこかの国の歴史や文化が体験しながら学べるというのが、ゲーム(とやまじっ~くうかん)のコンセプトです。**

ゲームのプレイヤーとして楽しみたい人も、県庁で登録してもらい、県庁前公園や周辺のコアエリアに設けられた、仲間や情報を集める為の酒場や、衣装になる装備を調達する為の武器屋や防具屋にて、必要な物を揃えてもらいます。  
なるべくお金を掛けたくない人や、掛けられない学生さんなどは、先にゲームメイカーとして、またはゲームメイカーのお手伝い(いわゆるバイト)として活動してもらうことで、ゲームを進めるのに最低限必要なアイテムを手に入れます。

街の掃除や警備に貢献した人にも、その働きに応じて報酬が与えられ、その報酬はゲーム内でも使えます。  
散歩するだけでポイントが貰えるサービス(アプリ)があるように、ゲームに参加して経験値を貯めることでポイントが貰え、そのポイントを一定額以上貯めると、ゲーム内通貨であり、報酬である仮想通貨に交換することも出来るようにすることで、ゲームをする為に街中やメタバース内を歩き回って、リアルな世界の文化や歴史を学びながら、その国や地域の名物を楽しみながら健康にもなれるという感じにします。これにより、歩いて楽しい、幸せあふれるウェルビーイングな場所に出来、**毎年違うテーマで運営することで、その地域で働く人も、生活する人も、観光に来た人も、飽きることなく持続可能な魅力あふれる都市に出来ます。**

## 【このまちの特徴】

衣、毎年変わるゲームに応じた衣装が貸し出されており、それらを着てMR(混合現実)やAR(拡張現実)を使った(歴史を学べる)ゲーム(など)をしながら散策している住民や観光客。

食、富山の食を楽しむことが出来る、「うまかつちゃ周遊券」を利用し、街中の飲食店を食べ歩きできたり、毎年変わるゲームに応じた都市の郷土料理が楽しめます。  
ある店では、MR技術を使って地元のシェフが遠隔地にいる人に魚の切り方や、寿司の握り方を教えています。  
また、ある店では、他の国のシェフがMRやSR技術を使って、地元の郷土料理の歴史や作り方などを富山の住民や観光客に教えています。  
別の場所では、高齢者がSR技術を使って昔の富山の郷土料理と現代のアレンジ料理を比較しながら、若い世代に説明しています。

住、ゲームを通し、メタバース上と現実世界上にて、既存の政治・宗教・資本主義の在り方から見直し、新世界の在り方を議論し、定義し、デザインをホログラムで投影し、産学官民連携しながら人類の新生活を実践・模索する、実験都市のようなものにし、現実世界とメタバース世界をシームレスにつなぐポータルのような都市にします。  
このエリアに住む住民は、このエリア内だけで機能するルールに則って生活し、その結果を実社会にフィードバックすることで、より良い社会になる事を目指します。  
AR・VR・MR・SRなどについて→ [https://ar-go.jp/ar-basic-knowledge/AR\\_about/](https://ar-go.jp/ar-basic-knowledge/AR_about/)

以上の街並みと文化は、ほぼ全く同じメタバース(仮想空間)上にも構築されており、メタバース上で創られた物は、現実世界でも作って具現化させる方針で、現実世界での状況もメタバース上に反映させる方針にて運営するようにします。  
その為、世界の裏側に居たり、金銭的な問題や、持病の関係で、気軽に現地の富山へ足を運べない人も、気軽にメタバース上にて活動を行う事が出来る為、世界中から英知が集まりやすい環境になります。  
自分がメタバース上で発案し創り上げた物やサービスが、富山というマチナカに現れ、その利益の一部は発案者にも仮想通貨により支払われます。

これらを実現する為に、産学官民が連携し、現実世界とデジタルな仮想世界を最先端テクノロジーにより融合し、世界に先駆けてイノベーションを起こしていく最先端都市を目指します。  
日本は世界に先駆けて、少子高齢化率が先行しています。(そのへんも中国が抜こうとしています。)その日本が対策と効果を実証すれば、世界にとっても価値があるものとなります。よって実現には資金不足・アイデア不足と言って諦める前に、**プランを世界に発表・発信し、世界から資金調達すれば良いのです。結果をフィードバックされれば、出資者にもメリットがあるでしょう? やれると思っただけじゃ出来ないので県民であり日本人の底力です。頑張りましょう!!**